

道徳科の授業パターン分析をもとにした子どもの学びに対する認識とその変容

真壁佑輔（札幌市立上野幌中学校 教諭）

【研究背景と目的】

近年、小中一貫教育において「中 1 ギャップ」を解消し、小学校から中学校へのスムーズな接続を実現しようとする取り組みが行われており、小中で共通する教科である「道徳科」に期待が寄せられている。一方で、道徳科は発達段階によって指導が異なるうえ、授業を客観的に可視化する方法が確立されていないため、校種を越えた比較が難しい状況にある。

本研究の目的は、授業構造を可視化するアプリ『カッシート』を活用し、道徳科の授業パターンと児童生徒の学びの認識およびその変容との関連性を検討することである。なお、本研究における「変容」とは、児童生徒が自らの学びに対して抱いた主観的な変化の自覚（以下、「変容感」）を指す。これは、質問紙調査の数値による比較や自由記述から推察される傾向として定義しており、児童生徒個々の内面的な道徳性の変容を直接的に実証するものではない点に留意されたい。

具体的な検討事項は、①簡便に「構造化シート」を作成できるアプリ開発、②校種別の授業構造の差異の検討、③授業パターンと子どもの学びに対する認識との関連の検討、④授業構造と子どもの認識の変容感との関連の検討の 4 点である。

【研究方法】

本研究はアプリ開発と、アプリを活用した授業データの収集・分析の二段階で構成される。まず、授業動画を再生しながら指一本のタップ操作で「教師の発問」「生徒の発言」「交流・活動」のカードを配置し、時系列に一枚のシートに表した「構造化シート」を作成できる iOS アプリ『カッシート』を開発した。

分析対象は、北海道内の小・中学校計 14 事例である。授業パターンの類型化にあたっては、第三者が検証可能な以下(1)～(3)の客観的な観察指標を判定基準として設定した。また、校種間の比較にはマン・ホイットニーの U 検定を用い、児童生徒の学習に対する認識データについては 5 項目からなる質問紙調査（4 件法）の量的・質的分析を実施した。

- (1) 授業の中心となる発問に対し、複数の生徒の意見が 3 枚以上並んで提示される対話構造が過半数を占める構造。
- (2) 「教師発問」と「生徒発言」のやり取りが 3 往復以上連続して繰り返される箇所が 1 授業内に 2 箇所以上確認され、かつ授業の中心となる場面以降に「交流・活動」カードが配置されている構造。
- (3) 授業の後半にかけて、「教師発問」と「生徒発言」のやり取りの数が増加している状態が確認される構造。

【結果と考察】

まず、①簡便なアプリ開発については、開発した『カッシート』を用いたプレ実践の結果、特別な説明がなくとも全対象者（6 名）が実際の授業時間と同等かそれ以下の時間で「構造化シート」を作成できることが確認された。授業者一人で客観的な授業分析を日常的に行うことができ、持続可能な授業研究の手法としての有用性が示唆された。

次に、②校種別の授業構造の差異に関しては、小学校では「児童発言」数が有意に多く、中学校では「交流・活動」回数が有意に多いことが確認された。この結果から、小学校では多様な視点に触れる授業構造、中学校では対話を通じて思考を深める授業構造である傾向が示唆された。③「授業パターンと学びの認識」については、客観的観察指標(1)～(3)に基づき授業を「発散・共有型」「連鎖・構成型」「収束・深まり型」の 3 パターンに類型化した。中学校に多く見られた「連鎖・構成型」は思考の広がりの実感を高める傾向が示唆された一方、小学校に多く見られた「発散・共有型」は他者理解の土台として機能している傾向が示唆された。

さらに、④「特定の構造が認識の変容感に及ぼす影響」については、「生徒発言」に対する「教師発問」のやり取りが増加する「収束・深まり型」の構造が、生徒に認知的葛藤を誘発する傾向が示唆された。この結果から、教材を自己の生き方の問題として捉え直す「自分事化」等の認識の質の転換を促す可能性が推察された。

【まとめ】

本研究の成果として、アプリ開発による持続可能な分析手法の確立、「構造化シート」による客観的指標によるパターンの類型化、授業構造パターンと児童生徒の学習に対する認識との関連性の示唆の 3 点が挙げられる。

今後の課題は、事例の蓄積による知見の一般化の検討、他教科への適用可能性の検討および児童生徒個々の変容感プロセスの精密な追跡である。本ツールの活用が、小中一貫教育における円滑な指導の接続に寄与する研修モデルの構築に繋がることが期待される。客観的なデータに基づく対話により、児童生徒への質の高い学びの提供を両立させるリフレクション文化の構築を目指したい。

【共同研究者：根岸良久（札幌市立茨戸小学校）・安井政樹（札幌国際大学）・福島耕平（北海道教育大学教職大学院）】